
お金集めに関するババの御言葉

信仰といえば、私は一つの警告を発さなければなりません。多くの人々が、歓迎会を開くとか、寺院を建立するとか、儀式を行うといった目的のために、私の名前を使っているいろいろな場所でお金を集めています。それは正式に認められたものではなく、私の意向と指示に反するものです。私が禁止しているそのような要求に負けたり、そうしたやり方を奨励したりしてはなりません。

1962年11月25日 Sathya Sai Speaks Vol.2 C51

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19621125.html より

また、私に従っている人や私を崇拝している人のグループを集めて、私から「与えられた」という像や写真を見せたり、何か別の私の恩寵の印を宣伝したりして、お金を集める者たちがいます。彼らのなかには、「ババが、あなたからお金を集めるようにと、私をあなたに遣わしました」と明言する者さえいます。あるいは「ババが私にこれをくださいました」とか、「ババは、これこれこのようにして私を特別に祝福してくださいました」などと言った上で、あなたの助けを求めたり、あなたの賞賛や、あなたの財布を求める者がいます！ 私は皆さんに、相手が誰であっても、この種の人たちは、すべて、叱責して、追い返すよう求めます。

1962年11月25日 Sathya Sai Speaks Vol.2 C51

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19621125.html より

私は皆さんに言わなければなりません。この計画〔知的障害児施設の建設と運営〕のような、とても善い目的のために、道を外れた方法でお金を集めてはなりません。援助は、敬虔な心から、立派に働いて得たお金から、そして、援助の目的を知りそれを評価する人々から、来るべきです。これが、大切な計画のためであれ、舞踊や劇や映画で人々を誘い込んでお金を集めるような慈善興業の一切に、私が反対する理由です。私は宝くじにも反対です。宝くじの賞金は他人の稼いだお金を集めたものであり、何もしないで大金が手に入るという誘い文句が、宝くじの資金集めに使われるからです。

1963年9月15日 Sathya Sai Speaks Vol.3 C26

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19630915.html より

この施設〔知的障害児施設〕の今の働きと将来の可能性をよく検討した上で、各人が真心から、自発的に、何であれ喜んで差し出せるものを差し出してもらうようにしなさい。皆さんの義務は情報を提供することのみであり、人を促すことさえ試みてはなりません。本質的には善い活動のためであれ、施しを請うことは人間性を辱めることであり、請う人と請われる人の双方の品位が下がります。

1963年9月15日 Sathya Sai Speaks Vol.3 C26

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19630915.html より

この供犠（ヤグニヤ）のすべて、この学僧たちの集まり、このヴィドワン マハーサーバーは、あなた方の至福のためです。もしこの取り計らいの一切がどこか他の場所でなされていたら、どれほどの大騒ぎになっていたことか！ 人々は寄付をしてくれそうな人々のリストを持って土地を探し、この人はどうか、あの人はどうかと迷い、最後には自分たちの手柄を自慢するでしょう。しかし、ここではそういったことについて知る者は極わずかしきません。

1963年10月28日 Sathya Sai Speaks Vol.3 C34

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19631028.html より

寺社の新築が新種のビジネスになっています。新しい寺社を建てるために、人々は資金集めを始め、その過程で私腹を肥やし、騙されやすい大衆がその犠牲になっています。

1965年3月24日 Sathya Sai Speaks Vol.5 C13

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19650324.html より

皆さんは地元の古い寺院を無視して新しい寺院の建設を始めました。そして、また別のもっと新しい寺院を建てるための理由を見つけると、すぐにその新しい寺院もおざなりにするようになるのです。新しい寺院を建てる計画を立て、委員会を組織し、寄付金を集めるのに走り回っている人々は、ただ無神論を広めているにすぎません。というのも、彼らは純粋な帰依心や奉仕の精神というよりも、むしろエゴと貪欲と悪意によって促されているからです。この世の通貨はダーナ（お金）です。精神の通貨はサーダナ（霊性修行）です。そうした自称帰依者が名簿と帳簿を抱えてやって来ても、一パイサたりとも出してはなりません。

1964年8月19日 Sathya Sai Speaks Vol.4 C28

『バジャン 神への讃歌』p177

「礼拝堂建設計画」は、儲かる霊性ビジネスになっています。人々は、鴨になりそうな人のリストを持って歩き回り、私の名前でその人たちから寄付を搾り取ります。このビジネスでは、かなりの陰口、敵意、妬み、貪欲が引き起こされ、それは、あらゆる場所に互いに相手を罵り合う派閥争いをもたらしています。

1965年3月26日 Sathya Sai Speaks Vol.5 C16

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19650326.html より

もし誰かがあなたのところに来て、「サティヤ サイ ババが私の夢に来て、ババの宣伝活動を私に委託しました。できる限りのお力添えをお願いします」などと言っても、信じてはなりません。夢の中でも、起きている間でも、私は誰にもそのような仕事は委託しません。そのように語る人々は詐欺師です。彼らをそのように見なして、容赦なく扱いなさい。また、あなたに何やら見せて、「サティヤ サイ ババは私のことが大好きで、これをくださいました」などと言い、それから助けを請う者もいます。これは神聖原理そのものへの侮辱にほかなりません。

1965年3月26日 Sathya Sai Speaks Vol.5 C16

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19650326.html より

私はもう一つ皆さんに言わなければなりません。自分の信徒からお金を集める目的で、色々な場所を歩き回っているスワミやグルが大勢います。これは忌まわしい行為です。特に、サンニャースィン（出家行者）がそれをやっているなら、なおさらです。

1965年3月27日 Sathya Sai Speaks Vol.5 C18

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19650327.html より

様々な目的や物のためにお金を集める魂胆で、多くの人が私の名前を使いはじめました。もしそのような人たちがあなたのところに来たら、「あなたは悪いことをしている」という訓戒と共に、追い返しなさい。私が求めているのは、バクティ、信仰心、サーダナ、つまり、ハートの浄化だけです。お金を求めるのは物乞いだけです。はかないもの、色あせるもの、派手で安っぽいもの、卑しいものとは、私は決してかわりません。

1965年3月27日 Sathya Sai Speaks Vol.5 C18

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19650327.html より

私の名前をお金集めのために使っている人、自分は帰依者であるという自らの主張を汚す活動のために使っている人には、気をつけなさい。そうした人を信じてはなりません。お金が要求され、お金が渡される所には、私の居場所はありません。

1965年5月23日 Sathya Sai Speaks Vol.5 C32

お金は根本的に激性（ラジヨグナ）であり、危険や危害と背中合わせのものです。将来のためにミツを集めて蓄えるミツバチのように、人間もまたお金を蓄えたり集めたりします。けれども、哀しいことに、ミツバチは煙でいぶり出され、ハチミツは盗み出されます。私はどんなものであれお金を集めて蓄えるという考えには同意しません。私は皆さんがあちこち歩き回って資金を集めたり、寄付を集めたりすることを好みません。

1966年 Sathya Sai Speaks Vol.6 C44

数多くの場所で、サティヤ サイ マンディル（礼拝所）を建設する努力がなされています。しかし、サティヤ サイはあなた方のハートの中に安置されれば幸せです。それこそが私が好むマンディルであり、他はそうではありません。そうした他のマンディルを建設しようとする、寄付集めに回らなければならなくなります。この国で宗教が傾いているのは、寄付金を求めることと、寄付金を出すことのせいです。本当のことを言うと、最も貴い寄付は純粋な心です。それを組織に捧げれば、組織は輝きます。

1967年4月21日 Sathya Sai Speaks Vol.7 C18

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19670421.html より

サミティが取り組もうと計画している活動に必要な資金を集める一つの方法を教えましょう。前もって必要とする金額の見積もりを計算します。それが1000ルピーだと

しましょう。その情報をメンバーである15人に伝え、皆が集まる日を決めます。その日、一つの部屋の中に、蓋に細長い穴を開けた、鍵のかかった箱を置きます。各人が一人だけでその部屋の中に入り、箱の中に自分が寄付できると思う金額だけを入れます。お金を入れずに出て来ることでもあります。それは個人の自由であり、強制はされません。他の人（がいくら寄付したか）の情報を開示して資金が集められると、他の人ほどお金を寄付できなかつた人は肩身の狭い思いをするかも知れません。ですから、今言った方法が一番良いのです。皆が順番を終えたら箱を開け、中に入っている金額を計算します。それが見積もりの金額を下回った場合は、足りない分をメンバーの人数で割り、一人ずつ均等に出し合うようにします。金額が上回った場合は、次の企画まで取っておきます。資金集めのキャンペーンに、通常使われるような名簿、懇願文、領収書、その他のやっかいなものがあるのはなりません。そのやり方だと、戦略、欺瞞、競争心、中傷などが生じます。資金は、あなた方が抱いている聖なる目的に相応する、先のような静かで神聖な方法で集めなければなりません。

1967年4月21日 Sathya Sai Speaks Vol.7 C18

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19670421.html より

いくつかの場所では、礼拝の儀式（プージャー）が、仕事としてお金で雇われた人の手で行われています。同じことが家庭でも起こっています。単に小銭を払ったからといって、どうやって雇われ人が信愛を抱くことなどできるでしょうか？ 私は複雑なマントラを要求してはいません。あなたが心の中で神を礼拝すれば、すなわち、心を込めて神を呼べば、それで十分です。金銭を必要とする儀式や複雑さは、皆さんのサミティ（サイ オーガニゼーション）を貪欲と悪意と憎悪の王国へと引きずり下ろしてしまうでしょう。豚はその貪欲さのゆえに非難され、犬はその怒りのゆえに罵倒されます。ですから、だんだんとそうした悪に陥ってしまわないようにしなさい。

1968年10月1日 Sathya Sai Speaks Vol.8

私は、リーダーシップを発揮する存在である各ユニットの会長、および、ガイダンスとインスピレーションを与える存在である地区の会長が、自分の義務と責任を自覚し、資金という重いハードルを乗り越えたときに、オーガニゼーションは上手く行くようになると思っています。

1968年11月21日 Sathya Sai Speaks Vol.8 C43

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19681121-1.html より

私は、あなた方に考察してもらうために私が提示した項目に関する、あなた方のレポートを丹念に読んでいました。私は、資金集めについてのあなた方の提案は、どれを取っても悪いものだと言わざるを得ません。この件については、あなた方は一様に同じ考えで、それは私を満足させるものではありません。お金は根本的に激^{ラジューグナ}性であり、危険と害をはらんでいます。明日のための蜜を集めて蓄える蜂のように、人間もお金を集めて蓄えますが、哀しいかな、蜂は燻^{いぶ}し出され、蜂蜜は盗まれてしまいます。お金を集めて蓄えようというアイデアには、私はどれにも一切賛成しません。私はあなた方が資

金集めに歩き回ったり寄付を募ったりすることを好みません。

1968年11月21日 Sathya Sai Speaks Vol.8 C44

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19681121-2.html より

もしあなた方が価値のある目的のために真摯に祈るなら、資金は入ってくるということを私は保証します。信じなさい。そして、資金が流れ込んでくるのを見なさい。古代の聖仙たちは、信仰と誠実さ以外、何の財源もなしに、多くの供犠^{ヤグニヤ}を行いました。今、あなた方は、信仰と誠実さよりも、むしろ慢心に、不安に、自信のなさに動かされています。そのせいで、小さな投入口が付いた箱に会員限定で一人ずつ順番に秘密厳守で入られていく、という私の提案を試してみようともしないのです！

1968年11月21日 Sathya Sai Speaks Vol.8 C44

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19681121-2.html より

そうそうたる人たちを大勢集める必要はありません。お金のかかる道具一式は必要ありません。それらは無用の妨げです。講師や講演者に多くのお金を使ってはなりません。もし金銭的な報酬や華やかな接待を要求する者がいたら、そのような人とは距離を置きなさい。椅子と机で十二分に事足ります。あなた方の会のほとんどには、スピーカーは贅沢です。スピーカーは、必要なものというよりは、ステイタスシンボルになっています。資金は注意深く大切に使い、無駄な出費を避けることで、周辺のオーガニゼーションの模範となるように努めなさい。会は、集まれる余裕のある回数だけ行い、やらなければならないからといって集合をかけてはなりません！ 人々が会を待ち遠しいと思うようではなければなりません。多すぎると感じるようではいけません。

1968年11月21日 Sathya Sai Speaks Vol.8 C44

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19681121-2.html より

サミティやサンガを構成する15人あるいは20人の人々は、大騒ぎも虚勢も、活動に必要なお金もなしで、集まることが可能でなければなりません。持っているかもしれないお金目当てで、人を会員に引き入れてはなりません。グナ（属性）はアンナ（お金）よりも価値があります。私が訪問するとき以外は、村で特別な催しを行う必要はありません。巨大な会を催すために、ずる賢い方法で巨額のお金を集め、そうして集めた資金をいかがわしい経路で無駄にしている他の人々のことを、あなた方は批判します。それならば、あなた方自身もそのような過ちを犯すことを避けるべきです。

1968年11月21日 Sathya Sai Speaks Vol.8 C44

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19681121-2.html より

恩寵や教え、靈性に関する指導や伝承が、贈答品や寄付や代金と引き換えになされている場所は避けなさい。まっすぐに真実の道を行きなさい。にせ医者や、いかさま師によって脇道に引きずり込まれてはなりません。

1970年10月11日 Sathya Sai Speaks Vol.10 C30

サミティやセヴァ ダル等の毎回の経費は、会員だけで分担しなければなりません。会員以外の人から集金しようとしてはなりません。特別な行事の際には、一般の帰依者からの物品や奉仕の自発的な寄贈を受けることができます。しかし、会計係は必要ありません。どんな経理も、共通の事務員が受け持つことができます。

1970年11月22日 Sathya Sai Speaks Vol.10 C35

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19701122.html より

化身した神としての私の威厳、私の栄光を知らしめるために、いくつかの場所で、驚くべき性質の奇跡的な出来事が起こっています。これらの出来事が人を惹きつけるのをよいことに、多くの人たちが個人の宣伝や権力の拡大のためにそれを悪用しています。自分の祭壇から吹き出ているヴィブーティ（神聖灰）をお金と交換している人たちがいます！ 地位の高い「上級の帰依者」のふりをして歩き回り、自分が騙してお金を巻き上げている純朴な人たちを祝福し、恵みを与えているふりをしている人たちもいます。また、自分の家のババの写真からヴィブーティが出ている、アムリタ（神聖甘露）が出ている、あるいは質問への回答が書かれた紙や何やらが物質化されて出て来たなどといった虚偽の主張をする人たちもいます。サミティもユニットも、こうした詐欺師やペテン師と一切関わってはなりません。そうした人たち、あるいはそうしたことを勧める人たちと付き合っている者は誰であれ、即刻追い出すべきです。

1970年11月22日 Sathya Sai Speaks Vol.10 C35

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19701122.html より

いくつかの州では、人々が私の力の顕現を公にし始め、売買で利益を生み出すことを視野に入れて自分たちを宣伝屋に変えています。この種の商売をしているユニットがいくつかあり、それらはいまだにオーガニゼーションの中に存在しています！ あなた方はそれらのユニットをオーガニゼーションから切り離すことを決めなければいけません。私たちの名前を使って大勢の人が寄付や献金を集めています。そのせいで、オーガニゼーションの規定を知らない人々が間違った方向に導かれ、だまされています。どれほど裕福であっても、どれほど学者として高名であっても、どれほど社会で影響力のある重要な人物であっても、もしオーガニゼーションの規則に違反したら、その人物をオーガニゼーションから除名するよう努力しなければいけません。これは、違反がわかった時点で、即座に実行されなければいけません。

1971年12月23日 Sathya Sai Speaks Vol.11 C35

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19701223.html より

寺院や礼拝堂のゴープラム（塔）は、神が疲労した巡礼者に向かって手を掲げて、一息ついて休みなさい、それから、己の求める到着地へ向かってより速く歩を進めなさい、と呼んでいるかのようなものです。たいていの場所では、そうした塔は近年周囲に乱立している工場の煙突の中に埋もれて隠れてしまっています。工場から出る煙と、派閥争いと食欲から生じる憎しみというスモッグが、寺院の塔の空気を濁しています。寺院も、入場料を見積もったり礼拝料を徴収したりすることによって汚されています。礼拝から

湧き出る至福の流れは、金銭的な寄付を要求することによって遮られてしまいます。寺院は、社会意志に平安と喜びの流れがよどみなく流れるようにすることを許されなくなってしまうています。「なぜ、この礼拝堂〔シヴァム〕なのか？」と皆さんは尋ねるかもしれません。それはいつでも私がハイダラーバードに来たときにそこに宿泊できるようにするためでしょうか？ 私は、大きな建物も、家具も、あなた方がそこに取り付けましようとして出ている電気器具も要りません。私の後を追いかけて、私が行く先々の家々に来る人々が今必要としていることのために、私はさらに奉仕をするつもりです。私に定宿がないために、その人たちは、女性も子どもも、健康な人も病人も、どこに行けば私がいるかを知るのに大変苦勞をしています。この建物はそういった人たちに私を待つことのできる場所を提供してくれます。

1972年10月25日 Sathya Sai Speaks Vol.11 C49

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19721025.html より

サティヤ サイ オーガニゼーションと、オーガニゼーションのユニットは、会員以外の人からお金や物資を集めてはなりません。寄付集めは、水と火のように、この運動（サイの活動）とは相反するものです。もし、この点を許してしまえば、靈的進歩は消滅することになるでしょう。寄付は会員だけがするようにして、誰かれ構わず声をかけたり、サミティ（ユニット）の会員以外の人に要請したりしてはなりません。マイソールには、これは自分の写真から出たものだとか、自分の所から出たものだなどと言ってアマリタやヴィブーティなどを配っている人たちがいます。彼らは何週間かはそれらをただで配りますが、しばらくするとその辺の物乞いのようにお金を要求しはじめます！ そのようにしてお金を求めることも、お金を払うことも、罪です。帰依者たちは、そのような場所や人々には近づかないようにしなさい。心に神を思い浮かべなさい。神を見るのに、なぜそのような場所や、外に行くのですか？

1971年5月14日 Sathya Sai Speaks Vol.11 C11

サイラムニュース 138号より

他人に寄りかかってはなりません。自分の力と技能に寄りかかりなさい。自分の稼ぎ、自分の資産で生活しなさい。自立は若い男性を育てるための最良の食事です。不名誉を得たまま何十年も生きるよりも、名誉を得て一日生きるほうがずっと良いのです。百年生きる鳥（カラス）より、短命の白鳥のほうが良いのです。白鳥は皆から敬愛を受けませんが、鳥は嫌われて石を投げられます。他人の財産を欲しがったり、ごまかしや卑劣な方法で手に入る品物を欲しがったりしてはなりません。額に汗して稼ぎなさい。そうすれば、それを使う時、誇りを感じ、幸せになることができます。

1973年4月 Sathya Sai Speaks Vol.12

もう一つ、やめさせるべき習慣があります。たとえちょっとした行事を行うにも、どこかのユニットによってお金が集められています。どのユニットにも誰か裕福な人たちはいますから、もし、そのうちの一人か二人が行事に参加できれば、誰もかれもから資金を徴収せずとも、多くの活動を続けていくことができます。たとえば、プラシャーン

ティ ニラヤムでのこの大規模な世界大会を見てごらん下さい。事実を知らない多くの人は、この大会の資金確保のために、いったいどれほどのお金が使われたのだろうと思っているに違いありません。寄付は一銭も集められていないというのが事実です。この大会はメンバーたちの愛の表現であり、お金は必要ないのです。ここにいる誰もが、男性も女性も、自分に必要なものは自分で準備し、困難や不便を憂慮することなく自分の義務を果たしました。この種の幸福を得るのにお金は必要ないのです。いくつかの州ではささいな活動にも資金が徴収されているということを聞くのは、悲しいことです。たとえば役員の誰かがその方法を探ることに心が傾いたとしても、メンバーたちがその役員をその気にさせないよう、私は求めます。

1980年11月22日 Sathya Sai Speaks Vol.14 C56

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19801122.html より

昨夜、私はニューヨークから次のような趣旨の通信文を受け取りました。「スワミによって続けられている福祉活動、スワミによって立ち上げられた奉仕プログラム、スワミによって設立された病院の特有さは、全世界の人々に歓迎されています。バーラティヤ〔インド人〕はそれらの価値を十分に評価してきませんでした。広告も宣伝もなしにスワミによってなされたこの唯一無二なる奉仕を賞して、我々は慎んでその目的に貢献したく、その第一回分としてここにわずかながらの送金をいたします。」匿名希望のこの寄進者らは10億ルピーを送ってきました。そのうちの5億ルピーは定期預金にし、利子を高度専門病院の通常経費に充てることになっています。2億5千ルピーは、ヒューマンバリュー教育の振興のために高等教育機関に提供されます。残りの2億5千ルピーは、活動を続けていく上で臨時に要される費用に充てるため、サティヤ サイ セントラル トラストに提供されました。先の金額は初回分であると述べられています。寄進者らはこの寄付を許された自分たちを幸運に思うと述べています。これは真の犠牲です。小さな贈り物をする者の多くは自分の寄付を声高に宣伝します。ニューヨークの寄進者たちは匿名を望みました。「名前は重要ではありません。奉仕こそが重要です。この点においても、バガヴァンがなさっていることは神聖な奉仕です。」——これが彼らの声明です。私たちは、誰からも一銭も求めません。その理由は何でしょう？ 皆さんは、ここに私たちの無私の奉仕に対する返答を見ることができます。ですから、無私の奉仕に従事して下さい。それに対する報いはおのずとやって来るでしょう。この真実を疑ってはなりません。何を行う約束をしようとも、心を込めて行い、自分を十分に満足させるために行い下さい。その満足は、あなたにあらゆる報いと償いを与えてくれるでしょう。あらゆる強さを与えてくれるでしょう。これぞ皆さんが培わなければならない性質です。この真の富を獲得して下さい。善良さがなければ、他の富の一切は無価値です。

1994年3月11日 Sathya Sai Speaks Vol.27 C9

私はこのプロジェクト〔バガロールの高度専門病院の開設〕に関して、他の人々にはいっさい話しませんでした。もしそうしていたら、金銀が雨のように降ってきたことでしょう。この世には犠牲の精神を持った人々がたくさんいます。しかし、私は誰に対しても、私から頼むことはしたくないのです。

費用はいったいどこから来るのでしょうか？ いずれにせよ、私とその費用をまかなっています。病院と学校を運営するのに十分な利息を生み出すには、資本金として60億ルピーが必要となります。これが実現されれば、無償で今の水準の医療と教育を続けて行くことができます。ここには何千人もの人々がいますが、私は決して誰にも援助を頼んだことはありません。私の手は常に上にあり（与えるための仕草）、決して下にはありません（受け取るための仕草）。私の手は愛を受け取るためにだけ伸ばされるのです。けれども、このことを十分に理解している人は誰もいません。私は60億ルピーを必要としていたのですが、つい今しがた、アメリカから計60億ルピーが届くという知らせを受けました。この総額をバンガロールの病院に30億ルピー、プッタパルティの病院に20億ルピー、そして10億ルピーを教育機関に分配し、投資すれば、そこから得られる利息で運営費用をまかなうことができるでしょう。私には何も個人的な望みはありません。私の存在すべてが無私なのです。私にはまったく利己心はなく、誰にも求めることはありません。単に求められたからといって、いったい誰が10億ルピーをあっさりと与えるのでしょうか？ そのような人は誰もいません。しかし、ある個人が60億ルピーを引き渡しましようとして申し出てきたのです。私はその人物と直接的な関わりはありません。その人物からの通知には、「スワミ、あなたは月曜の正午に総額をお受け取りになるでしょう。お受け取りになったら、どうかすぐに、30億ルピーをバンガロールの病院の口座に、20億ルピーをプッタパルティの病院の口座に、定期預金として預けてください」とありました。完全に私心のない人を見つけることは困難ですが、もしもあなたが無私の奉仕を始めるならば、財源は自ずと生じるのです。

2001年8月11日 Sathya Sai Speaks Vol.34 C15

http://sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20010811.html より

サイの名前を使って商売をしている人々がいます。彼らは、サイの帰依者を装って他者を騙しています。私は、そのような行動には賛成しません。彼らは帰依者などではありません。彼らは、国の内外を問わず、様々な場所に行ってサイの名前を使って金集めをしています。それは重大な犯罪です。私はただの一パイサも人に求めません。私は、決してそのような商売を承認することはありません。もし誰かが、そのような世俗的な意図をもってあなたに近づいてきた場合は、それが誰であれ、すぐに出て行くように言いなさい。霊性の領域に商売が侵入するのを許してはなりません。

2002年7月22日 『サイセヴァ』 p84

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20020722.html より

人は、自分の家族を養うためには、自分の好きなことをしてよいでしょう。しかし、誰一人として、サイの名前を使って商売をすべきではありません。ところが、不幸なことに、そのような活動が増えてきています。多くの村々で、人々が個人的な利益のためにサイの名前を誤用しているのを見かけます。このようなことは、アメリカ、イギリス、

日本、ドイツ、シンガポール、マレーシア等々、多くの諸外国でも起きています。そのような悪い人々と関係をもってはなりません。あなたの心を純粹で神聖に保ちなさい。そうしなければ、あなたは生ける屍と同じになってしまいます。そのような人々を尊敬してはなりません。彼らの葬儀を執り行うほうがよいのです！

2002年7月22日 『サイセヴァ』 p84

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20020722.html より

皆さんは、帰依心と真摯な心でここに来ています。帰依という名のもとに商売をする人に騙されてはなりません。多くの場所で、そのような卑劣な行為に手を染めている人々が見かけられます。彼らから一定の距離を保って安全を確保しなさい。「悪い仲間からは走って逃げなさい。良い仲間に加わって日夜有徳の行いに励みなさい」。皆さんは、蛇と一緒に暮らしても良いですが、そのような悪い心をもった人々の仲間になることだけは避けるべきです。私たちは非常に多くの社会福祉の活動をしています。私は、誰からもただの一パイサすら求めたことはありません。皆さんはこのことをよく知っているはず。私はお金に関係することには、手を染めません。しかし、今の人々はお金を神と見なしています。そのような人を、どうして帰依者と呼ぶことなどできるでしょう？

2002年7月22日 『サイセヴァ』 p85

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20020722.html より

このことについては、すでにお話しましたが、私は両親のいない子どもたちのお世話をする奉仕プロジェクトを始めました。それぞれの子どもの名前で十萬ルピーの預金をして、それで彼らの必要が満たされることとなります。私は、このことに関して、誰にも何の援助も頼みませんでした。ところが、現在一部の人々が、この目的のためにスワミに献金するという名目でお金を集めています。また中には、子どもたちのお世話をする責任を引き受けたと公言する人々もいます。これ以上にひどい罪があるのでしょうか？そのような人々は、神を欺く者たちです。彼らは、私の名前を使ってお金を集めるよりも、道端で物乞いをした方が良いでしょう。

2002年7月22日 『サイセヴァ』 p86

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20020722.html より

バガヴァンは、いかなる神殿も必要ではありません。バガヴァンは不動産にはまったく興味がありません。バガヴァンが望むのは、ただひとつ、皆さんが至福に満ちて無私の心で社会に奉仕することです。もし年長者たちが皆さんの提案を受け入れないようであれば、彼らを見捨てても構いません。それは彼らの運命です。若い皆さんは、真剣な努力をすべきです。困っている人々を助けなさい。おなかを空かしている人に食べ物を与えなさい。他の人々の援助を求めて歩き回るようなことはやめなさい。もし何らかの助けが必要であれば、私のところに来なさい。バガヴァンは、ためらうことなく与えましょう。1パイサたりとも寄付を集めてはなりません。中には100ルピーの寄付をして、それによって1000ルピーにも相当する自己賞賛を行う人もいます。バガヴァンはそのよ

うな活動には興味がありません。バガヴァンが皆さんのそばに山のようにしっかりと立っているとき、どうして皆さんは、バガヴァン以外の人の助けを求める必要があるのでしょうか？ 人の言いなりになってはなりません。彼らはただ、虚飾に満ちた高尚な哲学を説くだけでしかありません。そのような状況がはびこっているのはインド国内ばかりではありません。世界中どこでも同じことです。イギリス、日本、ドイツ、どこに行っても同種の商売が行われています。あらゆるところから、そのような取引のニュースが届いています。バガヴァンにはそのような情報がたくさん伝えられています。私は、このようなことをすべて迷惑に思っています。このような種類の情報は、バガヴァンが聞きたいと思っていないものではありません。バガヴァンが一番聞きたいのは、すべての人が元気で、幸福と至福を味わっているという報せしらです。バガヴァンの名前を使って商売をすることは、非常に不快で、嘆かわしいことです。帰依に関する事柄に商売が関係してはなりません。塩辛い海の水ですら飲む水に使えるかもしれませんが、この種の帰依には何の価値もありません。バガヴァンは、決して誰にも寄付を求めることはありませんし、バガヴァンのメッセージを広めるためのエージェントももっていません。私はこのような虚偽に満ちた人々とは何のつながりもありません。

2002年7月22日 『サイセヴァ』 p88

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20020722.html より

ここには世界中から人々が集まっているので、私はこのような厳しい言葉を語らなければなりません。サイの名前のもとに商売の取り引きを行っている人々とは、いっさい関わりをもたないようにしなさい。そのような人は、合掌をして追い払いなさい。もし皆さんに何か必要なものがあるときは、私に頼みなさい。私はいかなる人も、騙したり、落胆させたりしたことはありませんし、今後もそのようなことはしません。決して私が真実に反することを語ることはありません。私は、そのような好ましくない行為が、純粋な帰依者の身には、いっさい降りかかることがないことを望んでいます。

2002年7月22日 『サイセヴァ』 p91

http://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_20020722.html より

外国では、何人かのインド人が、自分はスワミの帰依者であると主張し、スワミの名を使ってお金を集めるためにたくさんの嘘をついています。ある人は、スワミのために寺院や学校を建設するのだと主張し、お金を集めています。これらはすべて見え透いた嘘です。スワミは、どのような目的であっても金銭を受け取ったことはありません。ですから注意しなさい。そしてお金のためにサイの名を使ってあなたに近づいてくる人々からは離れていなさい。

2002年7月27日 アメリカ人帰依者への御講話より